序　目的

○栄町３－３地区は、地元の百貨店や大型店が集積し、市内のみならず、近隣市町からも数多くの人が訪れる賑わいの核であったが、車社会の到来、郊外大型店の出店、施設の老朽化などにより衰退している地区である。

○このような状況にある栄町３－３地区を含む中心市街地を再生させるため、平成24年１月に「滝川駅前再開発ビル活性化ビジョン」（以下「ビジョン」という。）が策定された。

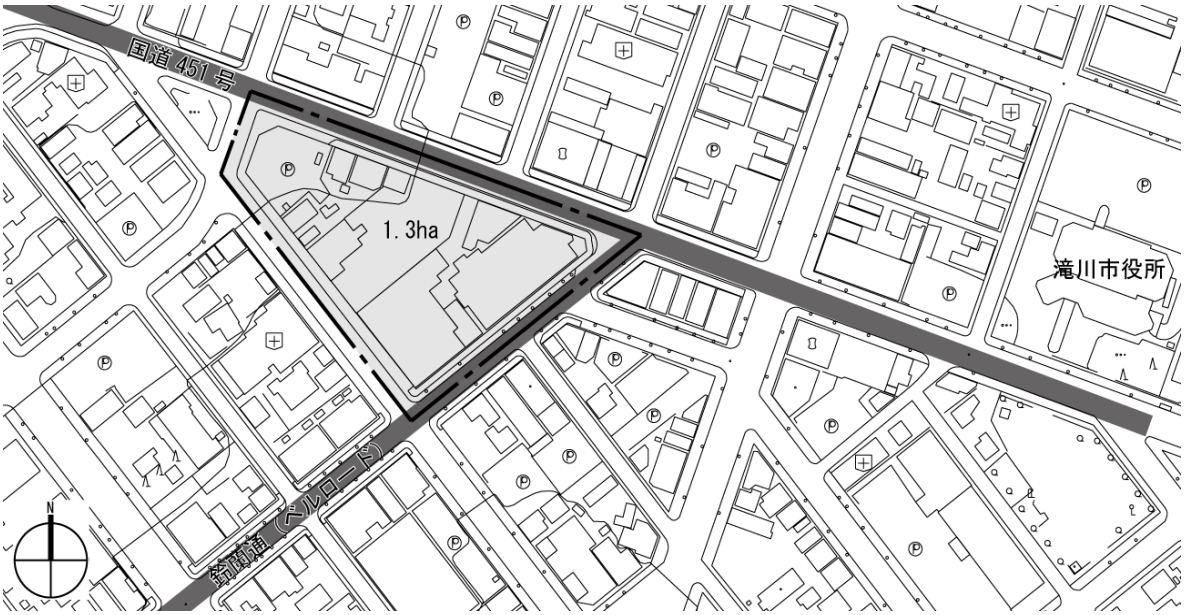
○ビジョンは、中心市街地活性化基本計画を踏まえ、「スマイルビル」及び「栄町３－３地区」の再生に向けた方向性を整理しつつ、「滝川の賑わいと暮らしの魅力を凝縮したコンパクトな街なかの再生」をコンセプトに、中心市街地の市街地構造を「１軸３拠点」として重点的かつ象徴的な通りを「拠点・軸」と位置付けた上で、集中的・重層的に取り組みを集約する方向性を整理している。

○栄町３－３地区は、１軸３拠点の内の「賑わい拠点」として、駅前からの人の流れを受け止め、周辺に波及させる賑わいを形成する場として重要な地区である。

○このような位置付けにある栄町３－３地区では、民間開発の機運が高まり、現在事業化に向けた検討が進行している状況にある。

○以上のことから、本計画は、栄町３－３地区の良好な民間開発を誘導し、ビジョンにおける１軸３拠点の形成を図るため、民間開発にとって指針となる土地利用や公共空間のあり方などを整理することを目的とする。

図１計画範囲（1.3ha）



１．現況調査

（１）市の概況

１）地勢

〇滝川市は、北海道のほぼ中央の空知管内の中心部に位置しており、北海道の大動脈であるＪＲ函館本線及び国道12号が縦貫し、ＪＲ根室本線及び国道38号、国道451号がこれから分岐し、道央と道東・道北を結ぶ交通の要衝となっている。また、市域は石狩川と空知川に挟まれた平野部に広がっており、土地はおおむね平坦で、ゆるやかな丘陵地帯となっている。

〇滝川市は、東西16．9km、南北15．8kmで、東は空知川を挟み赤平市、南は砂川市、西は石狩川を挟み新十津川町に隣接し、北は深川市・妹背牛町・雨竜町に囲まれている。

図ー滝川市の位置と区域（資料：滝川市都市計画マスタープラン）

２）人口・世帯

○滝川市の平成元年度の人口は50,356人と５万人を超えていたが、平成25年度では、41,988人となり、25年間に8,400人ほど減少している。

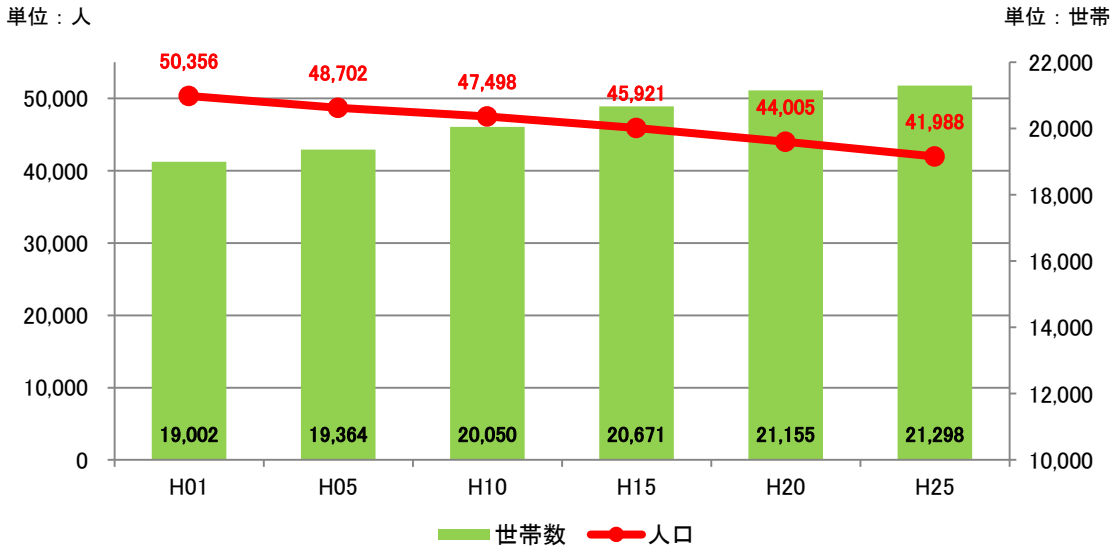
○人口減少の要因は、転出超過による社会減が主な要因だが、出生と死亡の関係では、平成元年度以降平成13年度までは、出生数が死亡数を上回り、自然増の傾向であったが、平成14年度以降では、死亡数が出生数を上回り、自然減の傾向も高まりつつある。

○滝川市の平成元年度の世帯数は、19,002世帯であったが、平成25年度では21,298世帯と増加傾向にある。

○一世帯当たりの人数は、2．65人（平成元年度）から1．97人（平成25年度）と減少傾向にあり、世帯分離等による核家族化が進行していると思われる。

表一滝川市の人口と世帯数の推移（単位：世帯、人）（資料：住民基本台帳　各年度３月末）

年度	世帯数	人口	男	女	転入	転出	出生	死亡	他増	他減	増減差
H01	19,002	50,356	24,190	26,166	3,386	3,978	501	374	22	19	-462
H02	18,945	49,375	23,635	25,740	3,201	4,340	503	343	29	31	-981
H03	19,080	49,053	23,492	25,561	3,249	3,737	477	346	52	17	-322
H04	19,256	48,856	23,366	25,490	3,302	3,634	472	354	39	22	-197
H05	19,364	48,702	23,269	25,433	3,046	3,359	448	293	30	26	-154
H06	19,516	48,533	23,140	25,393	2,890	3,172	487	385	31	20	-169
H07	19,551	47,979	22,841	25,138	2,894	3,492	422	393	18	3	-554
H08	19,762	47,940	22,816	25,124	3,056	3,138	433	384	24	30	-39
H09	19,900	47,726	22,756	24,970	2,958	3,216	402	358	16	16	-214
H10	20,050	47,498	22,643	24,855	2,817	3,121	433	349	18	26	-228
H11	20,202	47,395	22,594	24,801	2,783	2,888	418	413	15	18	-103
H12	20,311	46,900	22,351	24,549	2,602	3,138	411	372	17	15	-495
H13	20,483	46,711	22,234	24,477	2,623	2,855	405	371	21	12	-189
H14	20,621	46,365	22,088	24,277	2,552	2,846	372	436	14	2	-346
H15	20,671	45,921	21,834	24,087	2,434	2,840	388	422	10	14	-444
H16	20,855	45,685	21,750	23,935	2,438	2,616	352	419	24	15	-236
H17	20,915	45,226	21,476	23,750	2,339	2,667	328	444	20	35	-459
H18	20,968	44,831	21,235	23,596	2,193	2,466	343	499	42	8	-395
H19	21,047	44,394	20,977	23,417	2,217	2,527	348	485	23	13	-437
H20	21,155	44,005	20,736	23,269	2,161	2,387	335	505	17	10	-389
H21	21,189	43,594	20,598	22,996	2,062	2,311	345	504	13	16	-411
H22	21,245	43,281	20,384	22,897	1,874	2,020	329	497	7	6	-313
H23	21,269	42,815	20,166	22,649	1,895	2,162	302	505	11	7	-466
H24	21,250	42,292	19,892	22,400	1,738	2,119	262	464	76	16	-523
H25	21,298	41,988	19,771	22,217	2,028	2,125	306	515	16	14	-304



３）商業環境

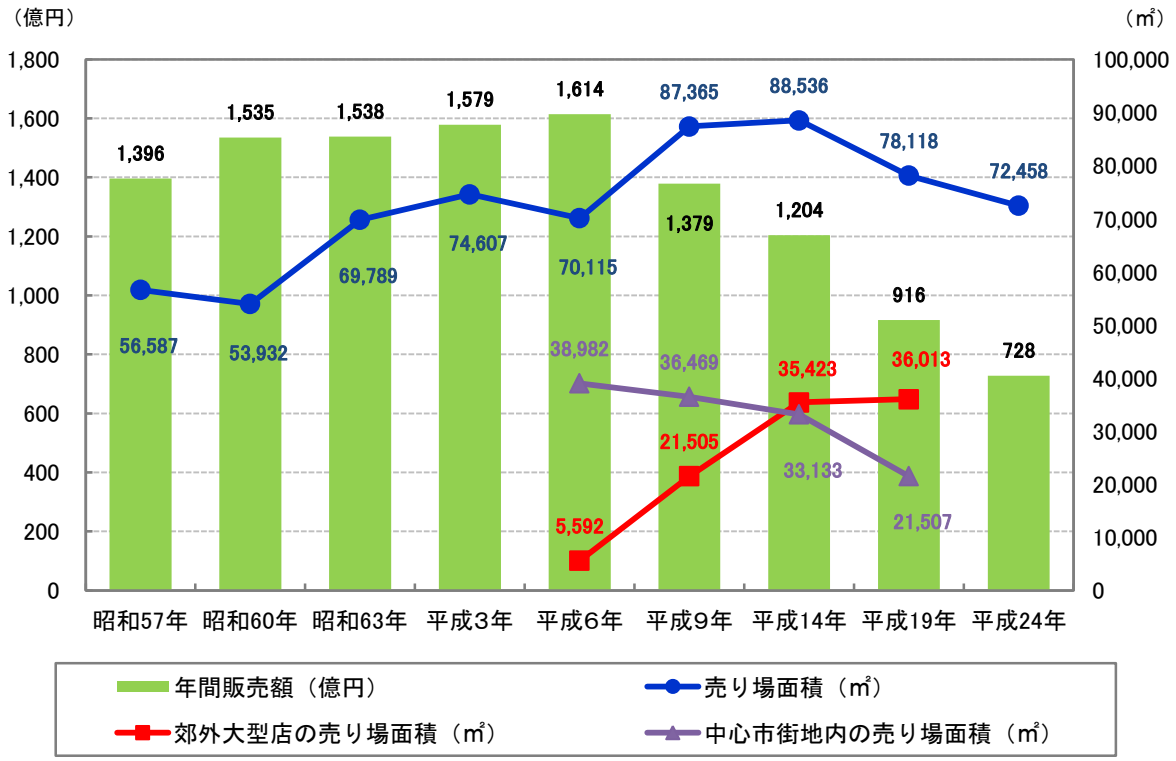
○滝川市の商業環境は、平成６年頃まで年間販売額は増加傾向であったが、社会情勢の変化、経済環境の停滞により、その後は、減少傾向となっている。

○一方、売り場面積は平成６年以降の郊外部への大型店の立地により売り場面積が増加し、平成19年では、市内の売り場面積の約46%を郊外の大型店が占めるまでになっている。

○郊外部の大型店の出店に伴い、中心市街地の売り場面積は減少を続け、平成19年では、平成６年当時の約55%となっている。

図ー滝川市の商業環境

（資料：商業統計調査（基幹統計）及びH24経済センサスー活動調査（基幹統計））



項目	昭和57年	昭和60年	昭和63年	平成３年	平成６年	平成９年	平成14年	平成19年	平成24年
年間販売額（億円）	1,396	1,535	1,538	1,579	1,614	1,379	1,204	916	728
売り場面積（㎡）	56,587	53,932	69,789	74,607	70,115	87,365	88,536	78,118	72,458
郊外大型店の売り場面積（㎡）					5,592	21,505	35,423	36,013	
中心市街地内の売り場面積（㎡）					38,982	36,469	33,133	21,507	

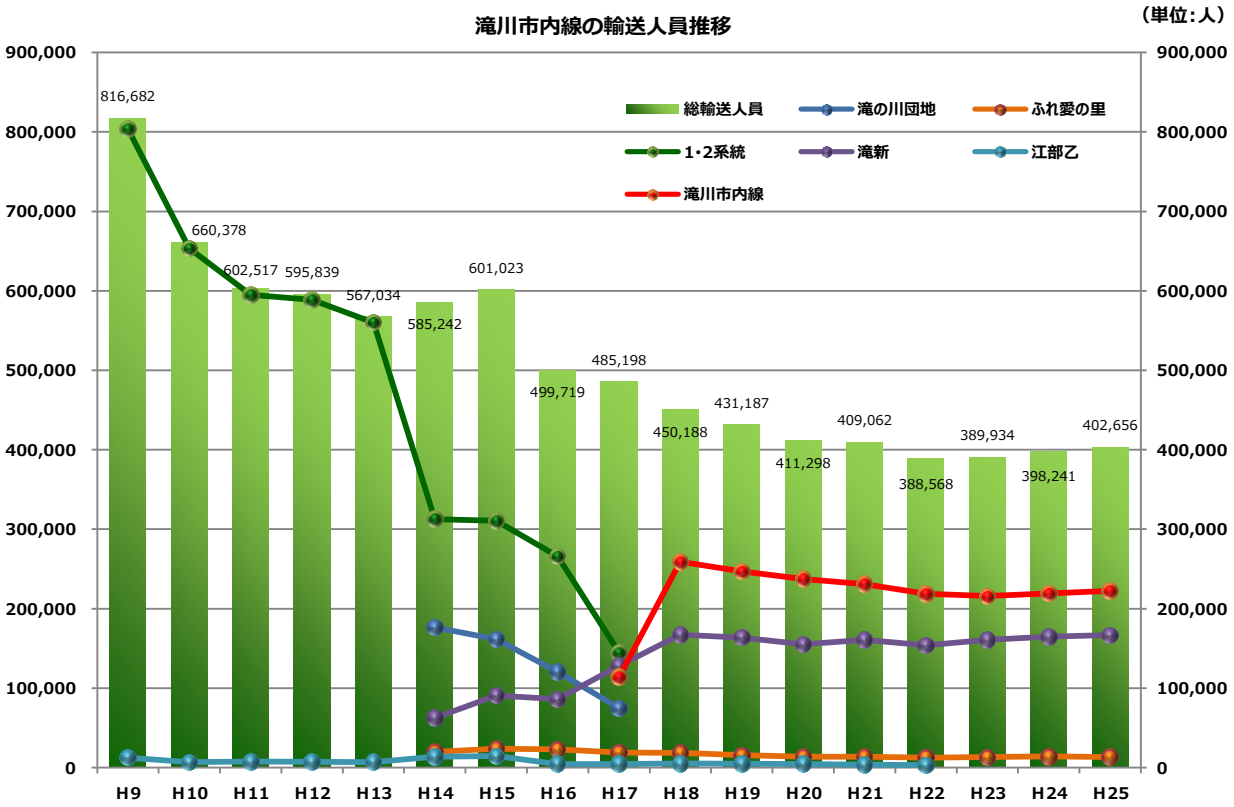
※郊外大型店及び中心市街地内の売り場面積調査はH6・H9・H14・H19のみ実施

４）市内公共交通の現況

〇滝川市内における主要公共交通である路線バスの利用実態を次のとおり整理する。

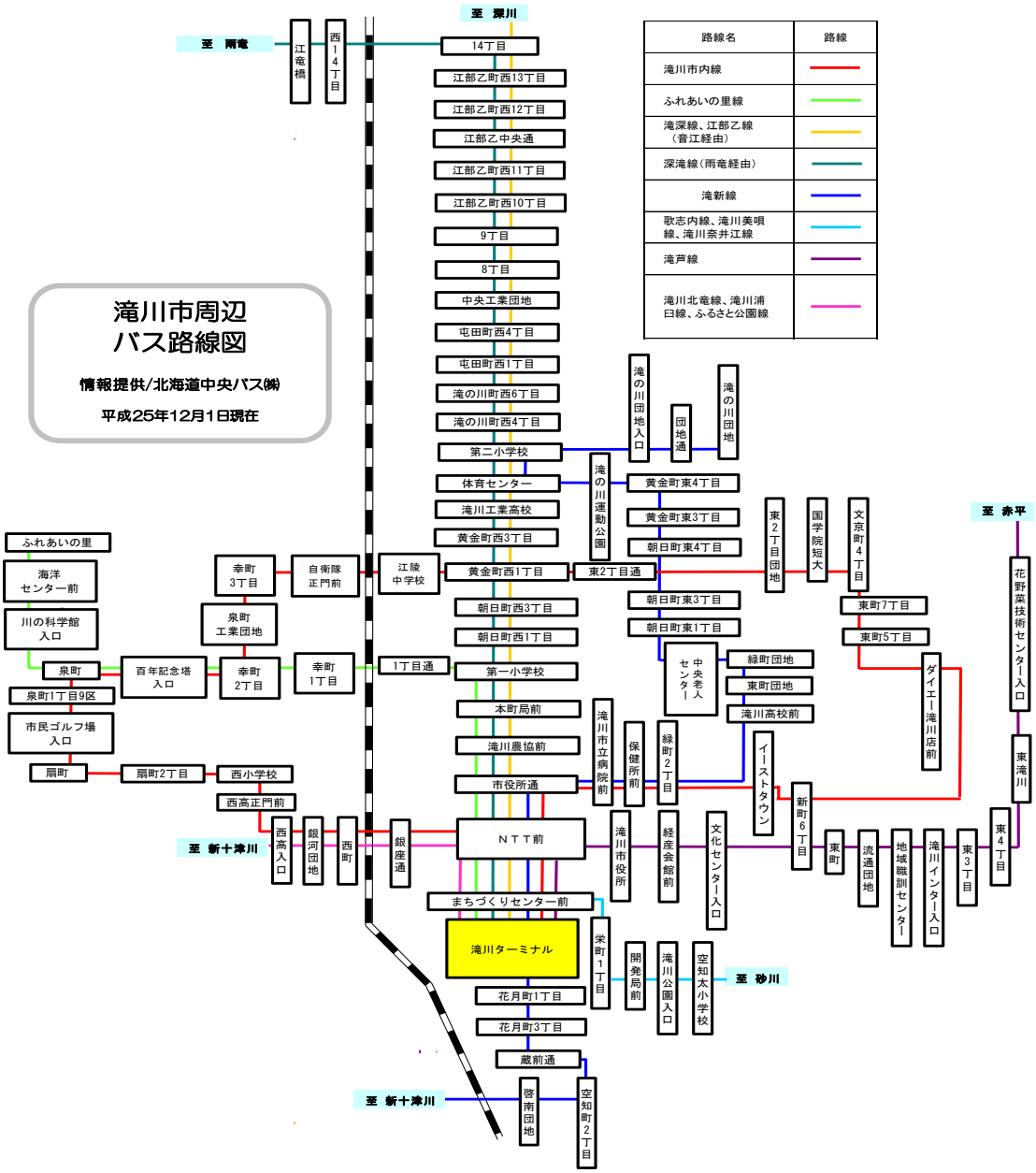
表ー滝川市内線の輸送人員推移（各年度；４～３月）　※北海道中央バス㈱調べ

	滝の川団地	ふれ愛の里	1･2系統	滝新	江部乙	滝川市内線	総輸送人員	備考
H9年度			804,141		12,541		816,682	
H10年度			653,637		6,741		660,378	
H11年度			594,933		7,584		602,517	
H12年度			588,663		7,176		595,839	
H13年度			560,092		6,942		567,034	
H14年度	176,526	19,680	312,822	62,649	13,565		585,242	期中「滝新線」新設（滝の川団地線の振替）
H15年度	161,399	23,745	310,587	90,844	14,448		601,023	
H16年度	120,532	22,880	265,745	86,072	4,490		499,719	
H17年度	74,790	19,153	144,652	127,981	4,543	114,079	485,198	12月から合理化実施（平日37往復、日祝33往復）
H18年度		18,756		167,181	5,127	259,124	450,188	
H19年度		15,655		163,664	4,683	247,185	431,187	
H20年度		13,851		155,275	4,653	237,519	411,298	
H21年度		13,715		160,842	3,571	230,934	409,062	H21.4.1 滝川市内線減便
H22年度		12,713		153,932	3,184	218,739	388,568	
H23年度		13,331		160,679		215,924	389,934	H24.12 ダイエー乗り入れ
H24年度		14,111		164,730		219,400	398,241	
H25年度		13,483		166,734		222,439	402,656	



○過去15年の輸送人員の推移を見ると、全体的に利用者数は減少の一途にあり、平成９年度比で約48%となっている。

○滝川市におけるバス路線は滝川ターミナルに集約される運行形態を取っている。大型駐車場を設置した郊外店舗の立地の進展や時間に制約されない買物形態の定着によりこれらの施設アクセスにおける自家用車利用が進んだため、中心市街地の衰退と合わせバス利用者の減少につながったものと想定される。

○一方、市立病院の改築、市役所への図書館の移転などに伴い、これらを経由する「滝川市内線」並びに「滝新線」については復調傾向にある。

図ー滝川市周辺バス路線図